

1 全体傾向——「学校への信頼」は比較的高い

- (1) 安全・安心への取組 : 生徒・保護者ともに肯定的な回答が9割台。学校の安全配慮は周知されている。
- (2) 先生が生徒に責任をもって接している : 生徒・保護者ともに約9割が肯定。「教師への信頼」は本校の強み。
- (3) 特色ある教育活動・学校の取組 : 8割超えの肯定的意見。学校の特色が、一定程度伝わっている。
- (4) 自分や他者を大切にする教育 : 生徒側でも9割前後が肯定的。人権・道德教育の基盤はできている。

今回の結果を「学校全体に問題が少ない」と分析しました。

むしろ、学校運営の土台となる「安全」「教師への信頼」「教育活動への評価」は強みと考えられます。

2 一番気になるのは「生徒の日常的な実感」

一方で、項目別に見ると、肯定的な回答の「I=あてはまる」が相対的に低くなるのは、「授業そのもの」、「学級の落ち着き」、「学習への向き合い方」、「評価・指導の実感」に関わる項目と分析しました。

特に注目したいのが、「落ち着いて学習できる学級づくり」です。生徒の「I=あてはまる」において、この評価項目が他の評価項目と比較して低めでした。この質問は、単に「先生がちゃんと指導しているか」ではなく、「自分は実際に落ち着いて授業を受けられているか」という生徒の日常的な体感に近いので、低評価の理由は、

- ① 授業中に集中しにくい ②周囲の生徒の言動が気になる ③クラス内の人間関係に落ち着かなさを感じる
④ 教師の指導があっても「自分の学習環境」としては十分でない といった可能性がある。

したがって、これは今回のアンケートの中でかなり重要な改善ポイントだと判断しました。

3 「わからない」が多い項目が見逃せない

さらに、重要なのが「5=わからない」です。これは「否定」ではありません。

むしろ、「学校が取り組んでいることを、生徒・保護者が十分に認識できていない」可能性があると推測できます。

特に、「キャリア教育」「特別支援教育」「学習環境」「地域との連携」「一部の学校独自の取組」等は、「やっているけれど、何をやっているのかまでは分からない」という状態が起りやすい領域でもあります。

本校としては、今後、「わからない」を減らすこと=広報を増やすことだけでなく、生徒自身が取組の意味を説明できる状態を目指すことが重要と捉え、全ての教育活動(授業も行事も)において「本時(今回)のめあて(目標)」を適切に示すことを推進していきます。

=喫緊の課題 上位3つに厳選=

第1位 「落ち着いて学習できる環境」の改善

最優先課題として、単なる「授業規律」の問題として扱わず、「生徒が安心して集中できる学級・授業づくり」を目指す。

- (1)授業開始・終了時のルーティンの統一 (2)私語・授業妨害等への対応基準の共通化
(3)教員間での学級状況の共有 (4)生徒同士の人間関係への早期対応
(5)「授業に集中できる」と感じていない生徒への個別聞き取り などを実施していきます。

第2位 「授業改善」を生徒の実感につなげる

ICT、話し合い活動、板書、説明などの「授業改善の取組」自体は評価されています。そこで次に見るべき指標は、

「授業が分かりやすい」「自分の考えを表現できる」「授業で『分かった・できた』と感じる」
「学習意欲が高まった」と生徒たちが実感できる学習成果の実現に向けた「教師側の授業改善」を目指します。

第3位 「学校の取組を伝える」から「取組の意味を共有する」へ

学校として、多くの取組をしています。が、「わからない」の回答数を考慮すると、取組の存在は伝わっていても、その目的や成果までは十分共有されていない可能性があると考えます。

本校では、この「わからない」の減少を目指し、ホームページや学校・学年・学級だより等で広報活動を促進します。